

第 53 回 吹田市情報公開運営審議会

1 日時 令和 2 年 9 月 4 日 (開会) 17 時 00 分 (閉会) 18 時 05 分

2 場所 吹田市役所 中層棟 4 階 全員協議会室

3 案件 (1) 令和元年度 情報公開制度の運用状況について
(2) その他

4 出席委員

(会長) 石橋 徹也 (副会長) 木下 智史

磯野 新 大江 尚子 西形 方良 春貴 勇力 山根 茂男

5 欠席委員

岩城 伸 相馬 孝

6 出席市職員 (事務局)

市民部長 高田 徳也

市民総務室長 大川 雅博 参事 川本 義一 主幹 井手本 治夫

7 傍聴者 無し

8 議事要旨

事務局： ~令和元年度 情報公開制度の運用状況について資料を基に説明~

委員： (制度運用中での課題として) 公文書の写しを受取りに来ない方がいるとのことだが、その方とは接触ができないのか。

事務局： できる場合とできない場合がある。

委員： 公文書の写しを受取りに来ない方の住所は分かっているのか。

事務局： 分かっている。

委員： 公文書の写しを受取りに来ない事案は同一人物によるものか。

事務局： 当該事例は概ね 10 件程度であり、対象者もバラバラだが、中には同一人物によるものもある。また、同一人物でも取りに来られたり、取りに来られなかったり対応が異なることがある。

委員： 公文書の写しを受取りに来ない事例では、市内在住者と市外在住者の割合はどうか。

事務局： 令和元年度では、ほぼ同じ割合となっている。

委員： 運用上、他市のように一定期間保管の後、廃棄するなどの取扱いを決めておく必要があると思う。

事務局： 検討する。

委員： 他市も含めて、公文書の公開自体をインターネットやメールなどにより

行っている事例はないのか。

事務局： 公文書の写しを希望される場合、本市では窓口又は郵送による交付となる。他市の取組みにおいても、メールでPDFデータを送信するといった取組みは把握していない。

また、インターネットの活用ということについては、市として行政情報をホームページなどで積極的に発信するよう努めている。

委員： 電子化することは、手間やコスト面でもメリットがあると考え。また、視覚障がいがある方にとっては、テキスト化されたPDFデータであれば専用ソフトで読み上げることも可能となる。

また、市がオープンデータ化しているものは、公開請求されるニーズが高いからオープンデータ化しているのか。また、それに伴って請求件数などが減少しているのか。

事務局： ワードなどで作成したデータをPDF化したものは専用ソフトで読み上げることができることは認識している。本年9月議会の議案参考資料をホームページに掲載する際はそういう対応に努めることになっている。

平成30年度と令和元年度を比較して、請求件数等が減少していることについては、詳細な分析は難しいが、確認できた範囲で報告すると、議会に対しての請求は24件減少している。これは、平成30年度に特定の方から政務活動費について23件請求されていたが、令和元年度は請求がなかった。

次に、行政経営部に対する請求は23件減少している。そのうち平成30年度は中核市移行準備に関する請求が12件あったが、令和元年度は請求がなかった。

また、税務部においても20件減少している。そのうち、14件は同一の方から固定資産税、法人税関連についての請求が集中していたが、令和元年度は請求がなかった。

先ほども述べたが、市全体としても積極的に情報を発信していくよう取り組んでいるところである。しかし、このことにより公文書公開請求が必ずしも不活発になるものではないと考えている。

委員： 政務活動費に係るデータをオープンデータ化したから件数が減ったということか。

事務局： 平成30年度に政務活動費について請求された方からは、令和元年度は政務活動費について1件の請求もないことから、平成30年度は同テーマに関心を持たれて請求されていたものと考え。

公文書公開請求は目的などを問わず請求できるものであるため、分析しづらい面がある。

委員： 政務活動費についてオープンデータ化したというような特段の事情はないということでしょうか。

事務局： 政務活動費はホームページ上で領収書まで公開している。そのことが十分伝われば公開請求してこられないことにつながると思うが、それを知らずに請求してきている場合もあると思う。

委員： オープンデータ化を進めて、そこに誘導することは良いことだが、それが情報公開の公文書と必ずしも一致するものとは限らないので、そこは請求者とコミュニケーションをとっていくことが大切だと思う。

事務局： 市民の方はどのような公文書があるのか分かりにくいところがあるので、どういうものを求められているか、丁寧に聞き取っていくことが重要であると認識している。引続き、そのように努めていく。